

## 私がつくった組織「バングラデシュ・トラベレッツ」

サキア・ハク（バングラデシュ）

私たちの社会では、女性が男性を伴わずに外出することは基本的に許されていません。どんなに試みても、これまで女性だけの旅行を許してもらえたことは一度もありませんでした。そこで私は親友と共に、旅行を通じて女性のエンパワーメントを図る組織をつくったのです。2016年11月27日に発足した「バングラデシュ・トラベレッツ」には、現在、さまざまな年齢層の33,000人の女性会員がいます。この組織の目的は、女性を家から連れ出し、または出るように勧め、自立した自分を感じてもらうことで女性のエンパワーメントを図ることです。これが完全な解決策であるとは思いませんが、こういった問題意識を背景にこの活動は始まりました。今日では、ますます多くの女性が解放感を味わっています。そして多くの組織がこの活動に追随しています。最も素晴らしいと思えるのは、さまざまな年齢の女性がこの活動に参加していることです。最初は、若い人たちだけが興味を持ってくれると思っていました。しかし、そうではありません。年配の女性たちも長年閉じ込められた生活にうんざりしていたのです。彼女たちは家から出て、自分のやりたいことをしたいと思っています。バングラデシュ・トラベレッツは「Joy Bangla Youth Award 2018」を受賞しました。これは国内の青年リーダーに贈られる賞です。また、最近、マレーシアから招待を受け、女性のエンパワーメントについての講演を依頼されました。しかし、問題の解決はそう簡単ではありません。

現在バングラデシュで直面している課題の1つは、女性たちが月経衛生に関して何も教わっていないということです。生理用ナプキンは高価で入手も難しく、また知識もないために、多くの女性がそれを選択肢として選ぶことができません。私たちはこれまで1年半この問題に取り組み、国内各地をまわり、女学生たちと話し、バングラデシュではタブーとされている月経について教えてきました。

私たちはバイクに乗って旅をするので、現地の女性たちは、女性でもこんなことができるのだと目の当たりにします。この光景はバングラデシュでは非常に珍しいということをお話しておかなければなりません。私たちは現在もこの問題に取り組んでいます。

私たちがしているのは草の根レベルの活動です。女学生に不衛生な布あてではなく生理用ナプキンを使用するよう奨励し、月経に関する女性の健康について教え、バングラデシュではタブーである女性の生殖システムについても話します。私はこれを自分の人生の使命と考えており、これまでに4万人以上の女子と交流してきました。

私自身が医師であるため、このような話題も話しやすく、女の子たちは月経に関連する悩みを打ち明けてくれます。彼女たちは両親とでさえ、この話題を口にできません。地域によっては、生理用ナプキンなど聞いたことがないという女性たちもいます（タンポンや他の手段はもちろんのこと）。月経に関する教育は全国で義務付けられているのですが、この話題はいまだタブーであり、取り上げられることはありません。

フォローアップも行っています。自分たちの電話番号を教え、健康問題に関する相談を受けています。

また、どうやって自分自身を守るべきかについても話し合います。バングラデシュの全 64 県でこのワークショップを実施しました。レイプやハラスメントの件数は国内で徐々に増加しています。そのため、女性が必要な時に自分自身を守る方法を知るべきだと考え、命を守る基本的なスキルを教えています。

今はバングラデシュの 64 県すべてをまわり終え、何百、何千というバングラデシュの人々から賞賛を受けました。私たちの活動は、バングラデシュの主要な新聞すべてに掲載されただけでなく、イタリアの新聞、また、BBC ワールドサービスと BBC ブレックファーストニュースでも取り上げられました。

私たちの活動はまだ終わっていません。全ての県にこの活動を継続するチームをつくる計画をしており、この活動を通じてバングラデシュをより良い国にしたいと思っています。



マハティール・モハマドの娘、マリナ・マハティールから招待を受け、マレーシアのクアラルンプールで女性のエンパワーメントについて講演しました。

2019 年 5 月 5 日にダッカで開催された直近のワークショップには 3000 名の女子が参加しました。



ランガマーティ (丘陵地帯の県) では、大変多くの女の子たちと交流を持ちました。

100 人の女の子を連れての旅行。女性は外出を許していないため、この活動は彼女たちに自信とパワーを与えました。

